

ある。左に曲がった所にF1・5mが現われる。節理がよく発達し、材木岩のようである。なんなくパス。すぐにF2 4mがあり、これを越えると小さなナメとなっている。右より滝が3つかかった小沢が合流した所に丸太による橋がかかっており、その先は小さなゴルジュである。その奥には砂防ダムがあって、右岸を捲き、トラバースぎみに進んでから沢に戻る。

小休止後遡行再開。小滝やナメが所々に出て、沢がU字状となった所を通り、F3 5m。なんなくパス。すぐに二俣となる。水量は左俣の方が多い。予定通り右俣へ入る。

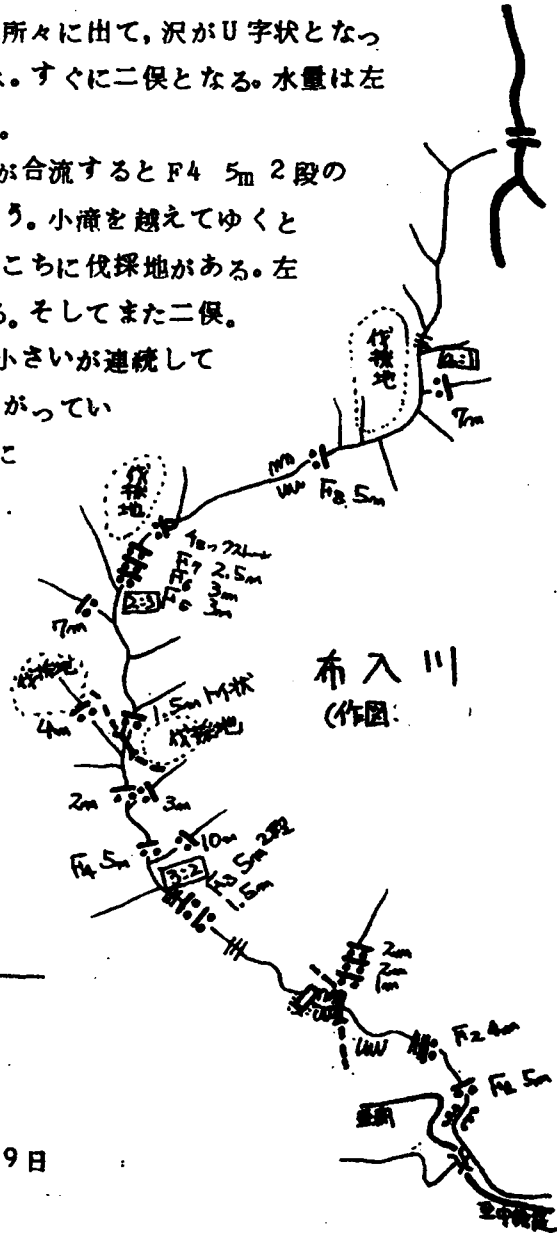
左岸から10mの滝となって小沢が合流するとF4 5m 2段の滝がある。これが地岡にある滝だろう。小滝を越えてゆくと橋がかかっていた。このあたりあちこちに伐採地がある。左右から小沢がいくつも合流してくる。そしてまた二俣。

二俣のすぐ先でF5, F6, F7と小さいが連続してかかる。この右岸にも伐採地が広がっている。ゴルジュが現われ、沢は逆S字に曲がる。その先にF8 5mがあらわれるが軽くパス。

伐採地が終わる頃にナメが現われ、沢の水も少なくなってきた。やがて平坦な場所に出て、沢が二分した。水はもうチョロチョロ。右へ進むとすぐ水もなくなり、15分程でコルへ出た。ここで昼食をとり、茂庭沢に向けて下降に移る。(記)

出合(8:20)——二俣(9:30)——
コル(12:30)

1982年8月29日
高山沢 L



天気快晴。出合のえん提上流は、堆石でうずまっております、水

は伏流となっている。ほどなく水流もあらわれ、F1 6mとなる。これは右側を直登する。上流はナメ床が断続的に続き、段々を所々にミックスしている。ナメとナメの間に小さな落差の滝、F2、F3を落し、この沢の核心部であろう。やがてF4 6mのナメ滝に着く。左右どちらでも登れる。仕事道らしい、荒れた跡跡がところどころに見えている。

8:50、二俣に着く。右俣が本流でそっちに入る予定だったが、判断がまずくて左俣をつめてしまう。背たけほどのカヤのやぶを沢ぞいにつめ、かん木帯をぬける。9:50、696mピークと670.3mピークのコルに到着。一息入れて下滝野沢(仮称)への下降に移る。(記)

高山沢取付えん提(7:20)——二俣(8:50)——コル(9:50)

平瀬
下滝野沢(仮称・下降)

1982年8月29日

L

コルから下滝野沢(仮称)へ下降する。こちらは高山沢側と植生が異り、やぶこぎもなしで沢に降り立つ。10時25分、下降開始。

